

令和 6 年度教職課程認定大学等実地視察について（案）

中央教育審議会初等中等教育分科会
教 員 養 成 部 会

1. 実地視察の目的

教職課程認定大学等実地視察の目的は、教職課程認定大学実地視察規程（平成 13 年 7 月 19 日教員養成部会決定）及び指定教員養成機関実地視察規程（平成 24 年 2 月 15 日教員養成部会決定）に基づき、教員の免許状授与の所要資格を得させるための大学の課程の認定を受けた大学及び教員養成機関としての指定を受けた機関について、認定及び指定時の課程の水準が維持され、その向上に努めているかどうかを確認する。

2. 概要

（1）総括的事項

- 令和 6 年度は、大学及び教員養成機関の計 11 大学等に対して、実地視察を行った。
- 全体として、教職課程の質を向上させるための積極的な取組を行っていることが確認できたものの、教職課程認定基準等の観点から教育課程及び教員組織等については是正すべき点のある大学等も見られた。

（2）個別的事項（個々の具体的評価、指摘・指導等）

①教職課程の実施・指導体制（全学組織等）

- 概ねどの大学等も教員養成に対する理念・構想を具現化するための全学組織、教育課程、教員組織等が整備されていることが確認できたが、一部の大学等では理念等が明確に示されていなかったため、全学的な組織、教育課程や教員組織の充実を一層努めるよう求めた。

②教職課程、履修方法及びシラバス等の状況

- 多くの大学等で授業科目について、教職課程コアカリキュラムに照らして、取り扱う内容が不十分であるものが散見されたため、適切な授業内容となるようシラバスの見直しを求めた。

③教育実習の取組状況

- 全ての大学等で、学生に対して教育実習指導が実施されていることが確認できた。
- 大学等によって、以下のような教育実習の取組がなされていた。
 - ・ 学校体験活動を含めた低学年次からの教育実習以前の学校現場での実習
 - ・ 訪問指導に加え、学生が困った時の相談、フォローアップの体制の充実

④学生への教職指導の取組状況及び体制

- 概ねどの大学等でも教員を目指す学生のための組織で教職指導が行われていた。
- 大学等によって、以下のような教職指導に向けた適切な取組がなされていた。
 - ・ 学生スタッフによるピア・サポーター制度を取り入れた学生の支援、ホームカミングデーを実施した、在学生に加えた卒業生の学びの支援
 - ・ 教員採用試験対策のみに留まらない、教員として実務的に求められる資質・能力の向上を支援する指導
 - ・ 定期的実施する教職・就職関係の調査データの活用・分析をいかした指導

⑤教育委員会等の関係機関との連携・協働状況（学校支援ボランティア活動等の活動状況）

- 概ねどの大学等でも教育実習や学校ボランティア等を通じて、近隣の教育委員会と積極的に交流していることが確認できた。

⑥施設・設備（図書を含む。）の状況

- 教職関連に関する図書について、関連図書が充分でない、蔵書が古く学習環境の整備がなされていない大学が見られたため、図書の充実を求めた。
- 一方で以下のように施設・設備が充実している大学等もあった。
 - ・ 図書、ICT 機器（電子黒板・タブレット、プログラミング教育に関する備品等）、学生達が自主的に学びに向かう自習スペース、実習室、プレイルーム等

⑦その他特記事項

- 複数の大学において、母校実習が前提となっている大学が見られた。教育実習は遠隔地の学校や学生の母校における実習ではなく、可能な限り大学が所在する近隣の学校において実習校を確保することが望ましい。なお、やむを得ず遠隔地の学校や学生の母校における実習を行う場合においても、実習先の学校と連携し、大学が教育実習に関わる体制を構築すると

ともに、学生への適切な指導、公正な評価となるよう努めていただきたい。

3. まとめ

- 各課程認定大学等においては、体系的に教育課程を編成し、教員免許状を取得しようとする者に対する教職指導の実施等を通じて、教職を志す学生が体系的・計画的に教職課程を履修することができるような取組が求められる。
- そのため、教職課程の運営や教職指導について、全学的に責任を持って行う体制の構築が不可欠であり、令和3年の教育職員免許法施行規則の改正により、複数の認定課程を有する大学はそれぞれの認定課程の円滑かつ効果的な実施を通じて、大学が定める教員の養成の目標を達成することができるよう、大学内の組織間の有機的な連携を図り、適切な体制を整えることとされた。これを踏まえ各大学等では全学的な連携や体制の更なる充実を進めて行くことが重要である。
- さらに、施行規則の改正においては、各大学は、認定課程の教育課程、教員組織、教育実習並びに施設及び設備の状況について自ら点検・評価を行い、その結果を公表することとされている。また、令和4年12月に取りまとめられた中央教育審議会答申（「令和の日本型学校教育」を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について～「新たな教師の学びの姿」の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成～」）においても、教職課程の不断の見直しについて言及されていることから、本部会での実地視察における指摘事項等も十分に踏まえた自己点検等を実施し、引き続き、教職課程の水準の維持・向上に努めることを期待する。

実地視察大学の概要

○課程認定を受けている学科等の概要

大学名	浜松学院大学（学部・学科等の課程）				設置者名	学校法人 興誠学園				
学部・学科等の名称等				認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況（令和５年度）				
学部	学科等	設置年度	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状取得者数		教員就職者数	
							実数	個別		
現代コミュニケーション学部	子どもコミュニケーション学科	平成19年度	70人	幼稚園教諭一種免許状	平成19年度	63人	55人	33人	46人	
				小学校教諭一種免許状	平成23年度			23人		
				特別支援学校教諭一種免許状	平成25年度			38人		
	入学定員合計			70人	合計		63人	55人	94人	46人
	備考	・「学部・学科等の名称等」欄は、令和６年４月１日現在の名称・定員を記載してください。 ・「免許状取得者数」欄の「実数」欄は各学科等の実人数、「個別」欄は各学科等内の教職課程ごとの人数を記載してください。								

教職課程認定大学の实地視察に対する講評

実地視察日：令和6年11月14日（木）

実地視察大学：浜松学院大学（オンライン）

【全般的事項】

○教員養成に関する教育課程、教育研究実施組織等については、一部是正が必要な箇所はあるものの、全般的に基準を満たしており、良好に実施されている。引き続き、教員養成の水準の維持・向上に努めていただきたい。

【個別事項】

1. 教職課程の実施・指導体制（全学組織等）

○大学として教員養成に対する理念として、目指す保育者・教育者像を明確に挙げているが、その目標を具体化するために、今後も教職課程に対する全学的な組織の在り方の検討及び教職課程や教員組織がより一層充実したものとなるよう努めていただきたい。

○「大学における教員養成の原則」の趣旨を踏まえ、実践的な教育だけでなく、理論的な教育についてもバランスよく行う必要があるため、実践を研究に活かすことのできる教員組織等の環境整備や、研究家教員と実務家教員が一堂に会し、教職課程について議論を深められるようなFD等の取組について、今後検討いただきたい。

2. 教育課程、履修方法及びシラバスの状況、教員組織

○シラバス全般について、教職課程コアカリキュラムや特別支援コアカリキュラム等を踏まえつつ、学生の資質・能力を向上に資する理論と実践のバランスが取れた内容となるよう、見直しを求める。

3. 教育実習の取組状況

○学校体験活動については、学生に対する教育的効果も期待されることから、引き続き積極的に取り組んでいただきたい。その実践を、さらに理論との往還に活かせるような取組の充実を期待する。

○教育実習の相談体制について、指導教員の学校訪問に加え、学生が困ったときの相談体制について一定の工夫があることが確認できた。今後は、教育委員会との教育実習に係る情報共有の機会を設ける等、取組の充実を図られたい。

4. 学生への教職指導の取組状況及び体制

- 「HGU 教師塾」や「ハマガク幼保の会」など、教員採用試験対策だけでなく、教員として実務的に求められる資質・能力の向上を支援する体制が充実している。
- 電子化された履修カルテについて、今後、データの分析や利活用を行ってはどうか。

5. 教育委員会等の関係機関との連携・協働状況（学校現場体験・学校支援ボランティア活動等の取組状況）

- 地域の学校等における「子どもボランティア実習」や学校体験活動の取組の実績が確認できた。今後は、大学として教育委員会とより密に連携されることを期待したい。

6. 施設・設備（図書を含む。）の状況

- 施設・設備の環境について、概ね良好に整備されていることが確認できた。図書については、教員の意見も踏まえながら充実に努めていただきたい。
- 模擬授業室等について、実際の現場を再現した施設づくりをしていることが見受けられるため、今後においても充実を期待したい。

7. その他特記事項

- 浜松 STEAM 教育研究所において、特に幼児期等におけるプログラミング教育に関する備品が整備されており、それを使った先進的な授業や研究が行われている点が高く評価できる。今後は、当研究所を大学の全学的な組織に位置付ける等、取組を推進するとともに、学校を含めた地域の教育に還元していくことを期待したい。

教職課程認定大学の实地視察に対する講評

実地視察日：令和6年11月25日（月）

実地視察大学：京都光華女子大学（オンライン）

【全般的事項】

○教員養成に関する教育課程、教育研究実施組織等については、一部是正が必要な箇所はあるものの、全般的に基準を満たしており、良好に実施されている。引き続き、教員養成の水準の維持・向上に努めていただきたい。

【個別事項】

1. 教職課程の実施・指導体制（全学組織等）

○貴学としての教員養成に対する理念・構想が示されているが、それを明確化・具体化するために、教職課程に対する全学的な組織、教育課程や教員組織がより一層充実したものとなるように、今後も努めていただきたい。

2. 教育課程、履修方法及びシラバスの状況、教員組織

○シラバスについて、教職課程コアカリキュラムに示されている内容が学生に明確に分かるよう、見直しを求める。
○併設校と連携して行う初年次インターン等は、学生が低回生のうちから学校現場を経験することができる効果的な取組であり、引き続きその充実を期待したい。

3. 教育実習の取組状況

○大学から遠方の実習校において実習を行う学生に対し、よりきめ細やかなフォロー体制の構築に努めていただきたい。

4. 学生への教職指導の取組状況及び体制

○学生スタッフによるピア・サポーター制度を取り入れ、学生スタッフと大学職員が連携して低回生の学生を支援する体制を整えていたり、こども教育学科の教職課程担当教員等を中心とした全学的な支援体制を整えていることは評価できる。
○ホームカミングデーを実施し、卒業生や在学生の学びを支援している。今後は、地域の学校現場との連携などの充実を期待したい。

5. 教育委員会等の関係機関との連携・協働状況（学校現場体験・学校支援ボランティア活動等の取組状況）

○教育実習に関する情報共有やボランティア活動等について、引き続き教育委員会とより密な連携に努めていただきたい。

6. 施設・設備（図書を含む。）の状況

○保育実習室について、実際の保育現場を再現した施設づくりや工夫が確認できた。今後においても充実を期待したい。
○学生が安心して自主学習を行えるスペースが豊富に確保されている。また、大学の特色を活かした学習や資格取得への意欲を高める工夫等がなされていることが確認できた。

7. その他特記事項

○「令和5年度 教員研修高度化支援 教員研修の高度化に資するモデル開発事業」における採択事業に係る取組については、今後も研究活動を活発化されることを期待したい。
○「光華こどもひろば」を定期的を開催しており、スタッフとして学生を配置することで学生の資質・能力を養成するとともに、地域の子育て支援に取り組んでいることは評価できる。

実地視察大学の概要

○課程認定を受けている学科等の概要

大学名	姫路大学（学部・学科等の課程）（通学）				設置者名	学校法人 弘徳学園			
学部・学科等の名称等				認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況（令和５年度）			
学部	学科等	設置年度	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状取得者数		教員就職者数
							実数	個別	
教育学部	こども未来学科	平成20年度	80人	幼一種免	平成20年度（令和元年度）	84人	76人	30人	47人
				小一種免	平成20年度（令和元年度）			50人	
				養教一種免	平成20年度（令和元年度）			20人	
入学定員合計			80人	合計		84人	76人	100人	47人
備考	・「学部・学科等の名称等」欄は、令和６年４月１日現在の名称・定員を記載してください。 ・「免許状取得者数」欄の「実数」欄は各学科等の実人数、「個別」欄は各学科等内の教職課程ごとの人数を記載してください。								

実地視察大学の概要

○課程認定を受けている学科等の概要

大学名	姫路大学（学部・学科の課程）（通信）				設置者名	学校法人 弘徳学園			
学部・学科等の名称等				認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況（令和５年度）			
学部	学科等	設置年度	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状取得者数		教員就職者数
							実数	個別	
教育学部	こども未来学科 通信教育課程	平成20年度	200人	幼一種免	平成20年度 （令和元年度）	140人	102人	87人	25人
				小一種免	平成20年度 （令和元年度）			38人	
				養教一種免	平成20年度 （令和元年度）			29人	
入学定員合計			200人	合計		140人	102人	154人	25人
備考	・「学部・学科等の名称等」欄は、令和６年４月１日現在の名称・定員を記載してください。 ・「免許状取得者数」欄の「実数」欄は各学科等の実人数、「個別」欄は各学科等内の教職課程ごとの人数を記載してください。								

教職課程実地視察大学に対する講評

実地視察日：令和6年12月3日（火）

実地視察大学：姫路大学（実地）

【全般的事項】

○教員養成に関する教育課程、教育研究実施組織等については、一部是正が必要な箇所はあるものの、全般的に基準を満たしており、良好に実施されている。引き続き、教員養成の水準の維持・向上に努めていただきたい。

【個別事項】

1. 教職課程の実施・指導体制（全学組織等）

○教員養成に対する明確な理念を挙げているが、その目標を具体化するために、今後も教職課程に対する全学的な組織の在り方の検討及び教職課程や教員組織がより一層充実したものとなるよう努めていただきたい。

○「大学における教員養成の原則」の趣旨を踏まえ、実践的な教育だけでなく、理論的な教育についてもバランスよく行う必要があるため、今後、教員組織等のあり方について、検討いただきたい。

2. 教育課程、履修方法及びシラバスの状況、教員組織

○一部の授業科目について、教職課程コアカリキュラムを満たしていないものが見受けられた。シラバス等について、再度見直しを行うとともに、シラバスが教職課程コアカリキュラムを満たしているか等、教職課程における質保証を担保する体制を検討いただきたい。

3. 教育実習の取組状況

○近畿圏内においては、通信課程も含め、教員が訪問指導を行っていることが確認できた。遠方で実習を行う学生についても、学生に直接指導を行えるような体制について検討いただきたい。

○教育実習は、大学による教育実習指導体制や評価の客観性の観点から、遠隔地の学校や学生の母校における実習ではなく、可能な限り大学が所在する近隣の学校において実習校を確保することが望ましい。なお、通信課程では、学生の負担軽減等の観点からやむを得ず遠隔地の学校や学生の母校における実習を行う場合においても、実習先の学校と連携し、大学が教育実習にいっそう関わる体制を構築するとともに、実習期間中の学生への適切な指導方法、公正な評価が保証されるよう、今後とも努めていただきたい。

4. 学生への教職指導の取組状況及び体制

- 通学課程の学生だけではなく、通信課程の学生についても、きめ細やかな履修指導を行っていることが確認できた。
- 学生の将来に繋がる教職指導について、個々の教員の取組については確認できたが、今後、通信課程も含めた、全学の体制の更なる充実に向けて検討していただきたい。

5. 教育委員会等の関係機関との連携・協働状況（学校現場体験・学校支援ボランティア活動等の取組状況）

- 今後、近隣の学校における実習先の確保なども含め、地元教育委員会との連携を進めていくことを検討していただきたい。

6. 施設・設備（図書を含む。）の状況

- 施設・設備の環境について、概ね良好に整備されていることが確認できた。
- 実践的な図書だけでなく、理論が学べる図書等についても、今後、充実に努めていただきたい。
- 今後、学生が ICT の利活用ができるような学内の環境整備を検討していただきたい。

7. その他特記事項

- 様々な実習室やプレイルーム等の環境が整っていた。
- 学生の自習スペースが充実していた。

大阪音楽大学

実地視察大学の概要

○課程認定を受けている学科等の概要

大学名	大阪音楽大学（学部・学科等の課程）				設置者名	学校法人 大阪音楽大学			
学部・学科等の名称等				認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況（令和５年度）			
学部	学科等	設置年度	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状取得者数		教員就職者数
							実数	個別	
音楽学部	音楽学科	平成24年度	220人	中一種免（音楽）	令和元年度	169人	54人	53人	16人
				高一種免（音楽）	令和元年度			54人	
入学定員合計			220人	合計		169人	54人	107人	16人
備考	・「学部・学科等の名称等」欄は、令和６年４月１日現在の名称・定員を記載してください。 ・「免許状取得者数」欄の「実数」欄は各学科等の実人数、「個別」欄は各学科等内の教職課程ごとの人数を記載してください。								

実地視察大学の概要

大学名	大阪音楽大学短期大学部（学科等の課程）				設置者名	学校法人 大阪音楽大学			
学部・学科等の名称等				認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況（令和５年度）			
学部	学科等	設置年度	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状取得者数		教員就職者数
							実数	個別	
	音楽科	平成21年度	100人	中二種免（音楽）	令和元年度	65人	7人	7人	2人
入学定員合計			100人	合計		65人	7人	7人	2人
備考	・「学部・学科等の名称等」欄は、令和６年４月１日現在の名称・定員を記載してください。 ・「免許状取得者数」欄の「実数」欄は各学科等の実人数、「個別」欄は各学科等内の教職課程ごとの人数を記載してください。								

大阪音楽大学

実地視察大学の概要

○課程認定を受けている専攻等の概要

大学名	大阪音楽大学（専攻科の課程）				設置者名	学校法人 大阪音楽大学			
学部・学科等の名称等				認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況（令和5年度）			
研究科	専攻等	設置年度	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状取得者数		教員就職者数
							実数	個別	
音楽専攻科	作曲専攻	昭和42年度	1人	中専修免（音楽）	令和元年度	0人	0人	0人	0人
				高専修免（音楽）	令和元年度			0人	
	声乐専攻	昭和42年度	5人	中専修免（音楽）	令和元年度	7人	2人	2人	1人
				高専修免（音楽）	令和元年度			2人	
	器楽専攻	昭和42年度	14人	中専修免（音楽）	令和元年度	23人	11人	11人	6人
				高専修免（音楽）	令和元年度			11人	
入学定員合計			20人	合計		30人	13人	26人	7人
備考	・「学部・学科等の名称等」欄は、令和6年4月1日現在の名称・定員を記載してください。 ・「免許状取得者数」欄の「実数」欄は各学科等の実人数、「個別」欄は各学科等内の教職課程ごとの人数を記載してください。								

大阪音楽大学

実地視察大学の概要

○課程認定を受けている専攻等の概要

大学名	大阪音楽大学大学院（研究科・専攻等の課程）				設置者名	学校法人 大阪音楽大学			
研究科・専攻等の名称等				認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況（令和５年度）			
研究科	専攻等	設置年度	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状取得者数		教員就職者数
							実数	個別	
音楽研究科	作曲専攻	昭和43年度	2人	中専修免（音楽）	令和元年度	1人	0人	0人	0人
				高専修免（音楽）	令和元年度			0人	
	声楽専攻	昭和43年度	4人	中専修免（音楽）	令和元年度	4人	1人	1人	0人
				高専修免（音楽）	令和元年度			1人	
	器楽専攻	昭和43年度	7人	中専修免（音楽）	令和元年度	9人	2人	2人	0人
				高専修免（音楽）	令和元年度			2人	
入学定員合計			13人	合計		14人	3人	6人	0人
備考	・「研究科・専攻等の名称等」欄は、令和６年４月１日現在の名称・定員を記載してください。 ・「免許状取得者数」欄の「実数」欄は各専攻等の実人数、「個別」欄は各専攻等内の教職課程ごとの人数を記載してください。								

教職課程実地視察大学に対する講評

実地視察日：令和6年12月4日（水）

実地視察大学：大阪音楽大学・短期大学部（実地）

【全般的事項】

○教員養成に関する教育課程、教育研究実施組織等については、全般的に基準を満たしており、良好に実施されている。引き続き、教員養成の水準の維持・向上に努めていただきたい。

【個別事項】

1. 教職課程の実施・指導体制（全学組織等）

○教員養成に対する明確な理念を挙げているが、その目標を具体化するために、今後とも教職課程に対する全学的な組織の在り方の検討及び教職課程や教員組織がより一層充実したものとなるよう努めていただきたい。

2. 教育課程、履修方法及びシラバスの状況、教員組織

○教職コアカリキュラムを踏まえてシラバスが作成されているか点検する体制が確立されていることが確認できた。
○今後は、教職だけでなく、教科を担当している教員も含めた全学的な教職課程の運営体制を検討いただきたい。
○教職課程に関するFDだけでなく、SDについても、今後充実することを期待する。

3. 教育実習の取組状況

○教育実習については、丁寧な巡回指導を行っていることが確認できた。
○教育実習は、大学による教育実習指導体制や評価の客観性の観点から、遠隔地の学校や学生の母校における実習ではなく、可能な限り大学が所在する近隣の学校において実習校を確保することが望ましい。なお、学生の負担軽減等の観点からやむを得ず遠隔地の学校や学生の母校における実習を行う場合においても、実習先の学校と連携し、大学が教育実習にいっそう関わる体制を構築するとともに、実習期間中の学生への適切な指導方法、公正な評価が保証されるよう、今後とも努めていただきたい。

4. 学生への教職指導の取組状況及び体制

○短期大学部も含め、学生の実情に応じた丁寧な教職指導が確認できた。

5. 教育委員会等の関係機関との連携・協働状況（学校現場体験・学校支援ボランティア活動等の取組状況）

○地域の学校等における「サウンドスクール事業」や学習ボランティア等への取組の実績は確認できたが、今後、教育委員会等と一層連携し、学生が早期の段階から学校現場に触れる機会を増やしていくことを期待したい。

6. 施設・設備（図書を含む。）の状況

○施設・設備については、十分に整備されている状況が確認できた。

○学生が最新の知識を得られるよう、教職課程に関する理論的な図書についても、今後充実を期待したい。

7. その他特記事項

○大学の教員養成に対する理念を踏まえ、課題解決型の教育実習を行っている点や、履修カルテを活用している点について評価できる。

実地視察大学の概要

○課程認定を受けている学科等の概要

大学名	東亜大学（学部・学科等の課程）					設置者名	学校法人 東亜大学学園			
学部・学科等の名称等				認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況（令和５年度）				
学部	学科等	設置年度	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状取得者数		教員就職者数	
							実数	個別		
人間科学部	心理臨床・子ども学科 児童教育専攻	平成24年	30人	幼一 種免	平成24年度 （令和元年度）	27人	7人	5人	4人	
				小一 種免	平成24年度 （令和元年度）			7人		
	スポーツ健康学科 保健体育専攻	平成24年	50人	中一 種免（保健体育）	平成24年度 （令和元年度）	59人	26人	21人	9人	
				高一 種免（保健体育）	平成24年度 （令和元年度）			26人		
芸術学部	アート・デザイン学科	平成5年	50人	中一 種免（美術）	平成12年度 （令和元年度）	24人	1人	0人	0人	
				高一 種免（美術）	平成12年度 （令和元年度）			1人		
				高一 種免（工芸）	平成12年度 （令和元年度）			1人		
入学定員合計			130人	合計		110人	34人	61人	13人	
備考	・「学部・学科等の名称等」欄は、令和６年４月１日現在の名称・定員を記載してください。 ・「免許状取得者数」欄の「実数」欄は各学科等の実人数、「個別」欄は各学科等内の教職課程ごとの人数を記載してください。									

教職課程実地視察大学に対する講評

実地視察日：令和6年12月11日（水）

実地視察大学：東亜大学（実地）

【全般的事項】

○教員養成に関する教育課程、教育研究実施組織等について全般的に基準は満たしているものの、改善が求められる点があった。今後は必要な措置を講じ、教員養成の水準の向上に努めていただきたい。

【個別事項】

1. 教職課程の実施・指導体制（全学組織等）

○貴学としての教員養成に対する理念・構想を明確化し、その理念を具体化・具現化するために、教職課程に対する全学的な組織、教育課程や教員組織が充実したものとなるように努めていただきたい。

○人間科学部心理臨床・子ども学科児童教育専攻について、「教員養成を主たる目的とする学部学科等」であることを今一度認識いただき、そのあり方について学長のリーダーシップのもと、総合的に検討いただきたい。

○今後は、課程認定を受けている学部学科等ごとではなく、全学的な教職課程の運営体制を構築していただきたい。

2. 教育課程、履修方法及びシラバスの状況、教員組織

○一部の授業科目について、教職課程コアカリキュラムを満たしていないものが見受けられた。シラバス等について、再度見直しを行うとともに、シラバスが教職課程コアカリキュラムを満たしているか、教職課程を担当する教員について、適切な業績を有しているか等を改めて見直していただき、教職課程における質保証を担保するための体制を構築いただきたい。

3. 教育実習の取組状況

○教員がほとんどの実習生に対して、訪問指導を行っていることが確認できた。

○教育実習は、大学による教育実習指導体制や評価の客観性の観点から、遠隔地の学校や学生の母校における実習ではなく、可能な限り大学が所在する近隣の学校において実習校を確保することが望ましい。今後は、教育委員会等とも連携を密にいただき、近隣の学校における実習校確保に努めていただきたい。なお、学生の負担軽減等の観点からやむを得ず遠隔地の学校や学生の母校における実習を行う場合においても、実習先の学校と連携し、大学が教育実習にいっそう関わる体制を構築するとともに、実習期間中の学生への適切な指導方法、公正な評価が保証されるよう、今後とも努めていただきたい。

4. 学生への教職指導の取組状況及び体制

○教職課程を履修する学生への履修指導の充実や円滑な運営が行えるよう、教員及び事務の役割分担を含めた教職課程を支える組織体制について、学長のリーダーシップのもと、早急に構築していただきたい。

5. 教育委員会等の関係機関との連携・協働状況（学校現場体験・学校支援ボランティア活動等の取組状況）

○今後、近隣の学校における実習先の確保や地域の教員養成に対する要望等の情報共有も含め、教育委員会等との連携を進めていただきたい。

6. 施設・設備（図書を含む。）の状況

○施設・設備については一定整備されていることが確認できた。今後も必要に応じて充実を期待する。

○図書館の蔵書が古く、学生が勉学に励めるような環境整備が十分整っていなかった。学生が最新の知識を得られるよう、今後教職に関する書籍（電子書籍を含む）の購入を検討すること。

7. その他特記事項

○「体験実習Ⅰ・Ⅱ」について、低学年から教職の現場を学生に体験させる試みは評価できる。今後、この取組を学校体験活動に位置づける等、免許取得者を増加させるような、さらなる発展を期待したい。

県立広島大学

実地視察大学の概要

○課程認定を受けている学科等の概要

[illegible]

教職課程実地視察大学に対する講評

実地視察日：令和6年12月17日（火）オンライン
実地視察大学：県立広島大学

【全般的事項】

○教員養成に関する教育課程、教育研究実施組織等については、全般的に基準を満たしており、良好に実施されている。引き続き教員養成の水準の維持・向上に努めていただきたい。

【個別事項】

1. 教職課程の実施・指導体制（全学組織等）

○貴学としての教員養成に対する理念・構想が示されているが、それを明確化・具体化するために、教職課程に対する全学的な組織、教育課程や教員組織がより一層充実したものとなるように、今後も努めていただきたい。

○「大学における教員養成の原則」の趣旨を踏まえ、理論的な教育だけでなく、実践的な教育についてもバランスよく行う必要があるため、実務家教員をより活用した教員組織について検討いただきたい。

○公立大学における教員養成を地域に還元していくために、より大学内の連携を密に行っていただき、全学的な教職課程の運営に努めていただきたい。

2. 教育課程、履修方法及びシラバスの状況、教育研究実施組織

○シラバスについて、コアカリキュラムに示されている内容が学生に明確に分かるよう見直しを求める。また、シラバスの内容が教職課程コアカリキュラムを踏まえた内容となっているか確認する体制の構築に努めていただきたい。

3. 教育実習の取組状況

○教育実習について、担当教員が学生に対し訪問指導を行っていることが確認できた。

○教育実習は、大学による教育実習指導体制や評価の客観性の観点から、遠隔地の学校や学生の母校における実習ではなく、可能な限り大学が所在する近隣の学校において実習校を確保することが望ましい。今後、地元教育委員会や学校との連携を進め、近隣の学校における実習先の確保に努めることを検討いただきたい。

○実習生の指導記録等の充実について、実習校からの意見も取り入れつつ、全学的に取り組むことを期待したい。

4. 学生への教職指導の取組状況及び体制

- 学生の将来に繋がる教職指導について、履修カルテ等の個々の取組については確認できたが、今後、全学の体制の更なる充実を期待したい。
- ICT の活用に係る授業実践等の課題に対して改善されるよう、引き続き努めていきたい。

5. 教育委員会等の関係機関との連携・協働状況（学校現場体験・学校支援ボランティア活動等の取組状況）

- 今後、近隣の学校における実習先の確保なども含め、地元教育委員会との連携を進めていくことを検討していきたい。

6. 施設・設備（図書を含む。）の状況

- 施設・設備の環境について、概ね良好に整備されていることが確認できた。
- 教職研究室について、学生の学習スペースとして開放するだけでなく、教科書を始めとする教職関連の書籍を多数整備している。今後は、特定の学科等だけでなく、教職を目指す学生全体の学びの場として活用されることを期待する。

7. その他特記事項

- 教育実習を行う学生が作成した指導案を毎年まとめ、これから教育実習を行う学生へ参考として配布する等、学生の学びの支援につながる工夫を行っている。
- 3キャンパスにおいて開設されている教育の基礎的理解等の科目に係る共通開設の考え方について、教職課程認定基準に準拠した開設形態になっているか確認を要する。

実地視察教員養成機関の概要

機関名	彰栄保育福祉専門学校			設置者名	学校法人彰栄学園			
課程・学科等の名称等			認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況 (令和5年度)			
課程・学科等	設置年度	入学定員	免許状の種類	指定年度	卒業者数	免許状取得者数		教員就職者数
						実数	個別	
教員養成専門課程 保育科	大正6年度	120人	幼稚園二種	昭和26年度	80人	80人	80人	14人
入学定員合計		120人	合計		80人	80人	80人	14人
備考	・「学部・学科等の名称等」欄は、令和6年4月1日現在の名称・定員を記載してください。 ・「免許状取得者数」欄の「実数」欄は各学科等の実人数、「個別」欄は各学科等内の教職課程ごとの人数を記載してください。							

教職課程実地視察教員養成機関に対する講評

実地視察日：令和6年12月23日（月）実地

実地視察機関：彰栄保育福祉専門学校

【全般的事項】

○教員養成に関する教育課程、教育研究実施組織等については、全般的に基準を満たしており、良好に実施されている。引き続き、教員養成の水準の維持・向上に努めていただきたい。

【個別事項】

1. 教職課程の実施・指導体制（全学組織等）

○貴校としての教員養成に対する理念・構想について、それを明確化・具体化するために、教職課程に対する全学的な組織、教育課程や教員組織がより一層充実したものとなるように、今後も努めていただきたい。

2. 教育課程、履修方法及びシラバスの状況、教育研究実施組織

○質の高い保育者を養成するために民間資格の取得につながる授業科目を開講し、教育課程の工夫を行っていることは評価できる。
○実践的な教育内容の充実と併せて、理論的な教育内容についても理解が深まるよう、理論と実践の往還を意識した授業改善に努めていただきたい。
○教員の研究に対する支援について、今後は一層努めていただきたい。

3. 教育実習の取組状況

○教育実習について、生徒への指導体制をはじめ、適切に行われていることが確認された。
○異文化交流や小学校との接続などを意識した多様な実習経験の確保に努めていただきたい。

4. 生徒への教職指導の取組状況及び体制

○学生の主体的な学びが促進されるカリキュラムについて御検討いただきたい。また、履修カルテの活用を充実させることについても取り組んでいただきたい。

5. 教育委員会等の関係機関との連携・協働状況（学校現場体験・学校支援ボランティア活動等の取組状況）

○実習に関する取組などを検討する際には、併せて教育委員会や関係機関等との連携・協働にも配慮しつつ、計画していただきたい。

6. 施設・設備（図書を含む。）の状況

○ICT 等に関する授業科目を支援する基本的な施設は整っていることが確認できた。
今後は、ICT の活用を授業実践に積極的に取り入れることができるような施設・備品等の整備に努めていただきたい。
○図書館の蔵書については発行年が古いものが多い。特に新たな知識が求められる分野に関連する図書の充実を努めていただきたい。

7. その他特記事項

○悩みを抱える卒業生に対してフォローアップを行うなど、卒業後の支援の充実を期待したい。

実地視察大学の概要

○課程認定を受けている学科等の概要

大学名	宇都宮大学（学部・学科等の課程）				設置者名	国立大学法人宇都宮大学			
学部・学科等の名称等				認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況（令和5年度）			
学部	学科等	設置年度	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状取得者数		教員就職者数
							実数	個別	
国際学部	国際学科	平成29年度	84人	中一種免（英語） 高一種免（英語）	平成29年度 平成29年度	87人	3人	3人 3人	0人
共同教育学部	学校教育教員養成課程	令和2年度	170 (190)	幼一種免	令和2年度	158人	156人	11人	101人
				小一種免	令和2年度			153人	
				中一種免（国語）	令和2年度			18人	
				中一種免（社会）	令和2年度			16人	
				中一種免（数学）	令和2年度			19人	
				中一種免（理科）	令和2年度			17人	
				中一種免（音楽）	令和2年度			10人	
				中一種免（美術）	令和2年度			4人	
				中一種免（保健体育）	令和2年度			17人	
				中一種免（技術）	令和2年度			3人	
				中一種免（家庭）	令和2年度			12人	
				中一種免（英語）	令和2年度			22人	
				高一種免（国語）	令和2年度			16人	
				高一種免（地理歴史）	令和2年度			13人	
				高一種免（公民）	令和2年度			4人	
				高一種免（数学）	令和2年度			19人	
				高一種免（理科）	令和2年度			17人	
				高一種免（音楽）	令和2年度			9人	
				高一種免（美術）	令和2年度			3人	
				高一種免（工芸）	令和2年度			2人	
				高一種免（保健体育）	令和2年度			17人	
				高一種免（家庭）	令和2年度			10人	
				高一種免（工業）	令和2年度			0人	
高一種免（英語）	令和2年度	20人							
特支一種免（視・聴・知・肢・病）	令和2年度	23人							
工学部	基盤工学科	令和元年度	290人	高一種免（工業）	令和元年度	285人	3人	3人	0人
農学部	生物資源科学科	平成25年度	58人	高一種免（農業）	平成25年度	64人	4人	4人	0人
	応用生命化学科	平成25年度	30人	高一種免（理科）	平成25年度	34人	5人	5人	0人
	農業環境工学科	平成3年度	30人	高一種免（農業）	平成3年度	31人	0人	0人	0人
	農業経済学科	平成3年度	33人	高一種免（農業）	平成3年度	36人	1人	1人	0人
	森林科学科	平成3年度	29人	高一種免（農業）	平成3年度	27人	1人	1人	0人
入学定員合計			724人	合計		722人	173人	475人	101人
備考	・共同教育学部の入学定員について、（ ）内の数字は群馬大学共同教育学部学校教育教員養成課程の入学定員を示す。								

実地視察大学の概要

○課程認定を受けている学科等の概要

大学名	宇都宮大学（研究科・専攻等の課程）					設置者名	国立大学法人宇都宮大学										
学部・学科等の名称等				認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況（令和5年度）											
学部	学科等	設置年度	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状取得者数		教員就職者数								
							実数	個別									
地域創生科学研究科	社会デザイン科学専攻	令和元年度	77人	中専免（国語）	令和元年度	88人	1人		0人	1人							
				中専免（社会）	令和元年度				0人								
				中専免（音楽）	令和元年度				0人								
				中専免（美術）	令和元年度				0人								
				中専免（保健体育）	令和元年度				0人								
				中専免（家庭）	令和元年度				1人								
				中専免（英語）	令和元年度				0人								
				高専免（国語）	令和元年度				0人								
				高専免（地理歴史）	令和元年度				0人								
				高専免（公民）	令和元年度				0人								
				高専免（音楽）	令和元年度				0人								
				高専免（美術）	令和元年度				0人								
				高専免（保健体育）	令和元年度				0人								
				高専免（家庭）	令和元年度				1人								
				高専免（英語）	令和元年度				0人								
				高専免（農業）	令和元年度				0人								
				工農総合科学専攻	令和元年度				258人		中専免（理科）	令和元年度	288人	0人		0人	0人
											高専免（理科）	令和元年度				0人	
	高専免（農業）	令和元年度	0人														
	高専免（工業）	令和元年度	0人														
	教育学研究科	教育実践高度化専攻	平成27年度	18人	幼専免	平成27年度	18人	17人		1人	6人						
					小専免	平成27年度				9人							
中専免（国語）					平成27年度	2人											
中専免（社会）					平成27年度	4人											
中専免（数学）					平成27年度	2人											
中専免（理科）					平成27年度	5人											
中専免（音楽）					平成27年度	0人											
中専免（美術）					平成27年度	1人											
中専免（保健体育）					平成27年度	0人											
中専免（技術）					平成27年度	1人											
中専免（家庭）					平成27年度	0人											
中専免（英語）					平成27年度	2人											
高専免（国語）					平成27年度	2人											
高専免（地理歴史）					平成27年度	4人											
高専免（公民）					平成27年度	3人											
高専免（数学）					平成27年度	1人											
高専免（理科）					平成27年度	5人											
高専免（音楽）					平成27年度	0人											
高専免（美術）					平成27年度	1人											
高専免（工芸）					平成27年度	0人											
高専免（書道）					平成27年度	0人											
高専免（保健体育）					平成27年度	0人											
高専免（家庭）					平成27年度	0人											
高専免（工業）					平成27年度	0人											
高専免（英語）					平成27年度	2人											
特支専免（知・肢・病）					令和元年度	3人											
入学定員合計					353人	合計				394人		18人	50人	7人			
備考																	

実地視察大学の概要

○課程認定を受けている学科等の概要

大学名	群馬大学				設置者名	国立大学法人群馬大学			
学部・学科等の名称等				認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況 (令和5年度)			
学部	学科等	設置 年度	入学 定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状 取得者数		教員 就職 者数
							実数	個別	
共同教育学部	学校教育教員 養成課程	令和2年度	190人 (170)	幼一種免	令和2年度	187人	186人	7人	112人
				小一種免	令和2年度			174人	
				中一種免（国語）	令和2年度			22人	
				中一種免（社会）	令和2年度			21人	
				中一種免（数学）	令和2年度			22人	
				中一種免（理科）	令和2年度			21人	
				中一種免（音楽）	令和2年度			14人	
				中一種免（美術）	令和2年度			10人	
				中一種免（保健体育）	令和2年度			18人	
				中一種免（技術）	令和2年度			8人	
				中一種免（家庭）	令和2年度			13人	
				中一種免（英語）	令和2年度			17人	
				高一種免（国語）	令和2年度			19人	
				高一種免（地理歴史）	令和2年度			18人	
				高一種免（公民）	令和2年度			13人	
				高一種免（数学）	令和2年度			22人	
				高一種免（理科）	令和2年度			20人	
				高一種免（音楽）	令和2年度			13人	
				高一種免（美術）	令和2年度			4人	
				高一種免（工芸）	令和2年度			0人	
				高一種免（保健体育）	令和2年度			18人	
				高一種免（家庭）	令和2年度			12人	
高一種免（工業）	令和2年度	6人							
高一種免（英語）	令和2年度	16人							
				特支一種免（視・聴・知・肢・病）	令和2年度			14人	
入学定員合計			190人	合計		187人	186人	522人	112人
備考	・共同教育学部の入学定員について、（ ）内の数字は宇都宮大学共同教育学部学校教育教員養成課程の入学定員を示す。								

実地視察大学の概要

○課程認定を受けている学科等の概要

大学名	群馬大学					設置者名	国立大学法人群馬大学			
学部・学科等の名称等				認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況 (令和5年度)				
学部	学科等	設置 年度	入学 定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状 取得者数		教員 就職 者数	
							実数	個別		
教育学研究科	専門職学位課程 教育実践高度 化専攻	令和2年度	20人	幼専免	令和2年度	21人	20人		6人	
				小専免	令和2年度			11人		
				中専免（国語）	令和2年度					
				中専免（社会）	令和2年度			2人		
				中専免（数学）	令和2年度			6人		
				中専免（理科）	令和2年度			1人		
				中専免（音楽）	令和2年度			1人		
				中専免（美術）	令和2年度			2人		
				中専免（保健体育）	令和2年度			3人		
				中専免（技術）	令和2年度			1人		
				中専免（家庭）	令和2年度					
				中専免（英語）	令和2年度			2人		
				高専免（国語）	令和2年度			1人		
				高専免（地理歴史）	令和2年度					
				高専免（公民）	令和2年度			2人		
				高専免（数学）	令和2年度			6人		
				高専免（理科）	令和2年度			1人		
				高専免（音楽）	令和2年度			1人		
				高専免（美術）	令和2年度			1人		
				高専免（保健体育）	令和2年度			3人		
				高専免（家庭）	令和2年度					
				高専免（工業）	令和2年度			1人		
				高専免（英語）	令和2年度			2人		
				特支専免（視・聴・知・肢・病）	令和2年度		4人			
入学定員合計			20人	合計		21人	20人	51人	6人	
備考	・「学部・学科等の名称等」欄は、令和6年4月1日現在の名称・定員を記載してください。 ・「免許状取得者数」欄の「実数」欄は各学科等の実人数、「個別」欄は各学科等内の教職課程ごとの人数を記載してください。									

実地視察大学の概要

○課程認定を受けている学科等の概要

大学名	群馬大学				設置者名	国立大学法人群馬大学			
学部・学科等の名称等				認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況 (令和5年度)			
学部	学科等	設置 年度	入学 定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状 取得者数		教員 就職 者数
							実数	個別	
特別支援 教育特別 専攻科	重複障害教育 専攻	平成6年度	15人	特支一種免 (聴・知・肢・病)	平成19年度	7人	7人	7人	3人
入学定員合計			15人	合計		7人	7人	7人	3人
備考	・「学部・学科等の名称等」欄は、令和6年4月1日現在の名称・定員を記載してください。 ・「免許状取得者数」欄の「実数」欄は各学科等の実人数、「個別」欄は各学科等内の教職課程ごとの人数を記載してください。								

教職課程実地視察大学に対する講評

実地視察日：令和7年1月9日（木）

実地視察大学：宇都宮大学、群馬大学（オンライン）

【全般的事項】

○両大学において、教職課程の充実や積極的な取組が確認できた。引き続き、教員養成の水準の維持向上に努めていただきたい。

【個別事項】

1. 教職課程の実施・指導体制（全学組織等）

○両大学の教職課程に対する全学的な組織、教育課程や教員組織が十分整備されている。

また、共同教育学部としての教員養成に対する理念・構想がより明確化・具体化され、より一層充実したものとなるように今後も努めていただきたい。

2. 教育課程、履修方法及びシラバスの状況、教員組織

○両大学の関係委員会において、シラバスの内容等を点検する体制が整っていることは評価できる。

○各大学のシラバスについて、コアカリキュラムの各目標に対応しているようであるが、そのことがシラバス上で判然としない授業科目が一部散見されたため、明確となるようシラバスの記載内容を見直していただきたい。

3. 教育実習の取組状況

○両大学とも、教育実習に係る体系的なカリキュラムが整備されていることが確認できた。

○両大学の学生が共同で受講する「教職特別演習Ⅰ・Ⅱ」の開講や低学年時から学校現場を体験する授業科目を設定するなど、教育実践に係る取組が充実していることが確認できた。

○両大学のほぼ全ての学生の教育実習先に担当指導教員が巡回指導等を行っていることが確認できた。

○両大学とも、教育実習中の学生に対するフォロー体制が充実していることが確認できた。

4. 学生への教職指導の取組状況及び体制

- 共同教育学部を中心に、教職・就職関係の調査（アンケート等）を定期的を実施しており、その結果に対する分析及び分析結果に基づく対策を行う体制が整えられていることが確認された。
- 各大学において、履修カルテの内容や活用に関してさらなる充実を期待する。

5. 教育委員会等の関係機関との連携・協働状況（学校現場体験・学校支援ボランティア活動等の取組状況）

- 両大学において、教育実習のみならず教員研修等についても各県の教育委員会及び関連機関と連携していることが確認できた。引き続き、地域の中核としての役割を担っていくことを期待する。

6. 施設・設備（図書を含む。）の状況

- 施設・設備については、両大学とも全体的に良好に整備されていることが確認できた。
- また、両大学の学生が一斉に受講する授業において使用する双方向遠隔授業システムが確認できた。今後においても更なる充実を期待する。

7. その他特記事項

- 群馬大学の手話サポーター養成プロジェクトの取組が、共同教育学部における今日的な教育課題に対応している科目として活かされていることが評価できる。

実地視察大学の概要

○課程認定を受けている学科等の概要

大学名	松蔭大学（学部・学科等の課程）					設置者名	学校法人 松蔭学園			
学部・学科等の名称等				認定を受けている免許状の 種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況 （令和5年度）				
学部	学科等	設置 年度	入学 定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状 取得者数		教員 就職 者数	
							実数	個別		
経営文化 学部	ビジネス マネジメント学科	平成 12年度	72人	中一種免（社会）	平成12年度	77人	2人	2人	0人	
				高一種免（公民）	平成12年度			2人		
コミュニケーション 文化学部	異文化 コミュニケーション学科	平成 16年度	48人	中一種免（英語）	平成16年度	27人	2人	2人	1人	
				高一種免（英語）	平成16年度			2人		
	日本文化 コミュニケーション学科	平成 25年度	48人	中一種免（国語）	平成26年度	44人	4人	4人	1人	
				高一種免（国語）	平成26年度			4人		
	子ども学科	平成 29年度	48人	幼一種免	平成29年度	21人	21人	21人	4人	
観光メディア 文化学部	メディア 情報文化学科	平成 25年度	48人	高一種免（情報）	平成26年度	16人	0人	0人	0人	
入学定員合計			264人	合計		185人	29人	37人	6人	
備考										

教職課程実地視察大学に対する講評

実地視察日：令和7年1月15日（水）

実地視察大学：松蔭大学（実地）

【全般的事項】

○教員養成に関する教育課程、教育研究実施組織等について全般的に基準は満たしているものの、改善が求められる点があった。今後は必要な措置を講じ、教員養成の水準の向上に努めていただきたい。

【個別事項】

1. 教職課程の実施・指導体制（全学組織等）

○貴学としての教員養成に対する理念・構想が示されているが、その理念を具体化・具現化するために、事務体制も含めた教職課程に対する全学的な組織、教育課程や教員組織の充実に努めていただきたい。

○今後は、課程認定を受けている学部学科等ごとではなく、FDの実施等も含め、全学的な教職課程の運営体制を構築していただきたい。

2. 教育課程、履修方法及びシラバスの状況、教員組織

○一部の授業科目について、教職課程コアカリキュラムを満たしていないものが見受けられた。シラバス等について、再度見直しを行うとともに、シラバスが教職課程コアカリキュラムを満たしているか、教職課程を担当する教員について、適切な業績を有しているか等を改めて見直していただき、教職課程における質保証を担保するための体制を構築いただきたい。

3. 教育実習の取組状況

○教員がほとんどの実習生に対して、巡回指導等を行っていることが確認できた。

○教育実習は、大学による教育実習指導体制や評価の客観性の観点から、遠隔地の学校や学生の母校における実習ではなく、可能な限り大学が所在する近隣の学校において実習校を確保することが望ましい。今後は、地元教育委員会や付属校園等とも連携を密にいただき、近隣の学校における実習校確保に努めていただきたい。
なお、学生の負担軽減等の観点からやむを得ず遠隔地の学校や学生の母校における実習を行う場合においても、実習先の学校と連携し、大学が教育実習にいっそう関わる体制を構築するとともに、実習期間中の学生への適切な指導方法、公正な評価が保証されるよう、今後とも努めていただきたい。

4. 学生への教職指導の取組状況及び体制

○教職課程を履修する学生への就職等を含めた支援について、教員個人の支援に留まらず、全学的に支援する体制の構築に努めていただきたい。

5. 教育委員会等の関係機関との連携・協働状況（学校現場体験・学校支援ボランティア活動等の取組状況）

○教育委員会や関係機関等と連携・協働の推進に今後も引き続き努めていただきたい。

6. 施設・設備（図書を含む。）の状況

○施設・設備については一定整備されていることが確認できた。

○図書館の蔵書や教職に関連する書籍が古いため、学生が最新の知識を得られるよう、最新版の学習指導要領や教科書等も含めた関連書籍の購入を今後検討いただきたい。併せて、学生が手に取りやすい書籍の配架にも努めていただきたい。

○学生が教職に就いた際に学校現場の ICT 活用状況に対応できることを見据えた学内の環境整備を検討いただきたい。

7. その他特記事項

○教員用の履修カルテを作成しており、特徴的な取組であることが確認できた。

実地視察大学の概要

○課程認定を受けている学科等の概要

大学名	星槎道都大学（学部・学科等の課程）			設置者名	学校法人北海道星槎学園				
学部・学科等の名称等				認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況（令和５年度）			
学部	学科等	設置年度	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状取得者数		教員就職者数
							実数	個別	
経営学部	経営学科	平成13年度	120人	中一種免（保健体育）	平成21年度（令和元年度）	104人	8人	8人	2人
				高一種免（保健体育）	平成21年度（令和元年度）			8人	
				高一種免（商業）	平成17年度（令和元年度）			0人	
社会福祉学部	社会福祉学科	昭和53年度	60人	中一種免（社会）	平成13年度（令和元年度）	52人	10人	8人	9人
				高一種免（地理歴史）	平成13年度（令和元年度）			8人	
				高一種免（公民）	平成13年度（令和元年度）			9人	
				特支一種免（知・肢・病）	平成19年度（令和元年度）			9人	
美術学部	デザイン学科	昭和53年度	40人	中一種免（美術）	平成12年度（令和元年度）	56人	3人	3人	1人
				高一種免（美術）	平成12年度（令和元年度）			3人	
				高一種免（工芸）	平成12年度（令和元年度）			2人	
	建築学科	昭和53年度	40人	高一種免（工業）	平成12年度（令和元年度）	36人	2人	2人	0人
入学定員合計			260人	合計		248人	23人	60人	12人
備考	・「学部・学科等の名称等」欄は、令和６年４月１日現在の名称・定員を記載してください。 ・「免許状取得者数」欄の「実数」欄は各学科等の実人数、「個別」欄は各学科等内の教職課程ごとの人数を記載してください。								

教職課程実地視察大学に対する講評

実地視察日：令和7年1月21日（火）実地

実地視察大学：星槎道都大学

【全般的事項】

○教員養成に関する教育課程、教育研究実施組織等については、一部是正が必要な箇所はあるものの、全般的に基準を満たしており、良好に実施されている。引き続き、教員養成の水準の維持・向上に努めていただきたい。

【個別事項】

1. 教職課程の実施・指導体制（全学組織等）

○貴学としての教員養成に対する理念・構想が示されているが、それを明確化・具体化するために、教職課程に対する全学的な組織、教育課程や教員組織がより一層充実したものとなるように、今後も努めていただきたい。

2. 教育課程、履修方法及びシラバスの状況、教育研究実施組織

○教職課程を担当する教員は担当科目に係る適切な業績を有する必要があるため、教職課程における質保証を担保するための取組の充実に一層努めていただきたい。
例えば、採用段階で理論と実践の往還を担うことができる教員の採用を目指すこと、豊かな実務経験を有する教員が自身の知見の理論化を行うことなどが考えられる。
○コアカリキュラムを満たしていることがシラバス上で判然としない授業科目が一部散見されたため、シラバス上で明確となるような記載を御検討いただきたい。

3. 教育実習の取組状況

○教育実習は、大学による教育実習指導体制や評価の客観性の観点から、遠隔地の学校や学生の母校における実習ではなく、可能な限り大学が所在する近隣の学校において実習校を確保することが望ましい。そのため、実習先の確保については、引き続き教育委員会との対話を含めた検討を継続していただきたい。

4. 学生への教職指導の取組状況及び体制

○学生の教職指導について、きめ細やかな指導と環境づくりがなされていることが確認できた。引き続き、その充実に取り組んでいただきたい。

5. 教育委員会等の関係機関との連携・協働状況（学校現場体験・学校支援ボランティア活動等の取組状況）

○学校体験活動や教育委員会との教職啓発事業など、充実した取組が確認できた。引き続き、その充実に取り組んでいただきたい。

6. 施設・設備（図書を含む。）の状況

○図書館をはじめ、施設・設備については一定水準整備されていることが確認できた。
教職センターに配架されている教員採用試験に係る一部の書籍について、発行年の古いものが見受けられたため、可能な限り最新のものを整備されたい。
○学生が学校現場の ICT 活用状況に対応できるよう、引き続き電子黒板やタブレット等の活用に努めていただきたい。

7. その他特記事項

○サブメジャー・プログラム（特別支援学校教員養成プログラム）に関して、課程認定を受けた学科以外においても、広く特別支援学校教員免許状が取得できるかのような誤解を与える広報は避けていただきたい。